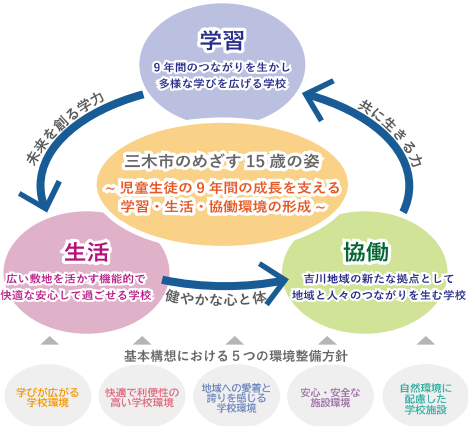


三木市吉川地域

これまでの検討経緯を踏まえ、「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想」や関連する行政計画との整合を図りながら、小中一貫教育を実践するために必要な学習環境や交流機能、防災機能等を整理するとともに、開校準備委員会やワークショップ等でいただいた意見を反映し、敷地利用や施設配置の方針を示す基本計画を策定しました。



施設一体型義務教育学校のメリットを活かし、学習空間の共有化や、教科の特性に応じた専門的な学習環境の整備を図るとともに、新しく整備される学校施設として、最新の教育ニーズに対応する学習環境と教職員の執務環境を計画します。

広い敷地を活かして児童生徒が安全にのびのびと過ごせる学校環境を計画するとともに、敷地の高低差を考慮した利便性の良い動線及び施設計画とします。また校舎は日当たりや通風を確保した健康的な建物とし、全ての子どもたちが安心して通える環境づくりを行います。

吉川地域の新たな教育・地域活動の拠点として、これまでのコミュニティ・スクールや地域連携学習の取組をさらに推進し、学校と地域のつながりを深めます。また、地域の防災拠点として必要な機能を備え、地域に親しまれ、安心して利用できる学校づくりを進めます。

- ① メディアセンター・教科ギャラリーを活用した学習環境
- ② 多様な学校運営に対応する柔軟な教室
- ③ 多様な学びを支える教育空間
- ④ 全ての児童生徒が学びやすい教育環境
- ⑤ 発達段階に応じた異学年交流空間
- ⑥ 働きやすさに配慮した管理諸室
- ⑦ 教科学習の高度化を支える特別教室



- ① 安全な遊び・運動を支える活動空間
- ② バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- ③ 歩車分離を基本とした安全な動線
- ④ 可視管理による安全な学校づくり
- ⑤ 自然環境を活かした省エネルギー計画
- ⑥ 県産木材を活用した木質空間
- ⑦ 安心して過ごせる居場所づくり



- ① 地域との交流を育む多目的交流スペース
- ② 地域・保護者連携推進室
- ③ 学校運営と地域利用を両立する地域開放ゾーニング
- ④ 避難所機能を備えた防災拠点
- ⑤ 学校の歴史を継承するメモリアル交流ホール
- ⑥ 部活動の地域展開に対応した競技空間・設備
- ⑦ 学童保育施設を併設した放課後の居場所



●児童生徒数や教職員数、教職員・地域住民・保護者とのワークショップを踏まえ、主に以下の所要室、規模にて計画します。

■校舎・・・普通教室9室、多目的スペース、多目的教室3室、特別支援教室4室、図書室、理科室2室、家庭科室、音楽室、工芸室2室、多目的交流スペース、職員室、事務室、校長室、保健室、相談室、サポートルームなど

■屋内運動場・・・アリーナ、ステージ、器具庫、更衣室、防災備蓄倉庫など

■付属施設・・・駐輪場、屋外便所、屋外倉庫など

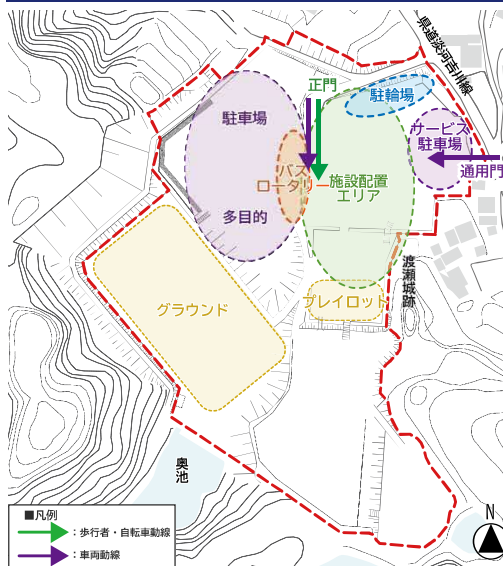
■学童保育施設・・・学童保育室、事務室、静養室（更衣室）、アメニティスペースなど

■合計延床面積・・・約8,000㎡

- ・敷地内に5か所の高低差があります。
- ・北東側は、県道淡河吉川線に接しています。
- ・東側には渡瀬城跡、南側にはため池（奥池）があります。

- ・ 東側県道、敷地内通路の両方からアクセスしやすい北側中央部に校舎を配置します。
- ・ 十分な駐車台数を確保できる敷地北西部に教職員・来客・スクールバス駐車場を配置します。
- ・ 校舎に隣接してバスロタリーを配置します。
- ・ 東側県道から直接アクセスできる北東部に給食搬入などのサービス用駐車場を配置します。
- ・ 広く整形で利用しやすいグラウンドを南西部に配置します。
- ・ 児童生徒の体格差に配慮し、校舎に隣接して低学年用プレイルットを設けます。

- ・歩車分離を基本とした安全な動線計画とします。
- ・北側敷地内通路に正門を設け、歩行者・自転車と一般車両・スクールのバスの動線を分離します。
- ・東側県道に通用門を設け、給食搬入などのサービス動線とします
- ・敷地内の高低差を踏まえ、階段・スロープ・エレベーターによりバリアフリー化を図ります。



- ・前期課程、後期課程及び特別支援教室のまとまりに配慮した配置。
- ・普通教室との連携に配慮した多目的教室・特別支援教室の配置。

特別教室ゾーン

- ・地域開放の優先度や、普通教室からの移動に配慮した配置。
- ・図書室は普通教室ゾーンからの移動や動線に配慮した配置。

- ・地域開放や避難所機能を考慮して 1 階に屋内運動場を配置。
- ・グラウンドと低学年用プレイロットを設け、安全に使い分けができる配置。

- ・学校全体が見渡せ、各教室や特別教室に移動しやすい位置に配置。
- ・相談室、サポートルームは、一般児童生徒との動線の交錯の生じにくい配置。

- ・児童・生徒昇降口や駐車場への動線に配慮しながら校舎内に配置。

・構造体は、大地震動後も大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とします。 ・耐震安全性の基準は、Ⅱ類・A類・乙類とします。 ・構造方式は鉄筋コンクリート造(RC造)を主体とします。 ・設備計画は維持管理や改修容易性、経済性、省エネルギー化に配慮した計画とします。 ・脱炭素化やエコス쿨の取組を推進し、ZEB Ready 相当の環境性能を目指す。 ・災害時の避難所機能を担うバックアップ体制を構築します。	・現状の地域利用状況を踏まえ、学校運営と地域利用を両立する地域開放を計画します。 ・屋内運動場などの1次開放と多目的交流スペースなどの2次開放に対応した地域開放範囲とします。 ・開放範囲に応じたゾーニングやセキュリティ計画により、安全で利用しやすい施設を計画します。
---	---

・現状の地域利用状況を踏まえ、学校運営と地域利用を両立する地域開放を計画します。	・指定緊急避難場所（地震時のみ）及び指定避難所として計画します。
・屋内運動場などの１次開放と多目的交流スペースなどの２次開放に対応	・安全で丈夫な建物づくりをするとともに、マンホールトイレや非常用電源などの避難設備を整備します。

- ・指定緊急避難場所（地震時のみ）及び指定避難所として計画します。
- ・安全で丈夫な建物づくりをするとともに、マンホールトイレや非常用電源などの避難設備を整備します。



- ・施設面・教育面・運営面の 3 つの視点から環境配慮計画について検討します。
- ・日射遮蔽や木質化、太陽光発電設備の導入など、環境負荷の低減に資する取組を行います。



	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
設計	基本・実施設計、許認可				
工事		既存校舎解体	校舎建設		
学校運営					供用開始

※点線部分は、今後の設計・工事進捗等により変更となる可能性があります。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
設計	基本・実施設計、許認可				
工事		既存校舎解体		校舎建設	
学校運営					供用開始

※点線部分は、今後の設計・工事進捗等により変更となる可能性があります。